

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600418		
法人名	伊勢温泉観光株式会社		
事業所名	グループホーム にのみの家		
所在地	三重県津市新家町1488		
自己評価作成日	平成29年11月6日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kihon=true&JigvoNoCd=2470600418-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 29 年 11 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近鉄(桃園)駅より東へ徒歩8分、竹林を前に、重文指定のお地蔵さんの安置されている古刹と隣あっています。完成な住宅の並びの外れにあります。地域の皆さんは心温かく私達を見守って下さっています。自然、人の環境、に恵まれたことを感謝し、和やかな眼差し、優しい言葉「和言愛語」、をモットーに、利用者の皆様の「ご安心、ご満足」を目指し、精進をかさねています。加えて今度「みんな、お友達仲良く 楽しい毎日を送ろうね」と正面玄関近くに、一言掲げました、毎日を共に暮らすお互いの友情がどんなに温かい、慰めや、励ましになるかに気づいたからです。「みんなの気持ちが、うれしいね」と。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田園地帯が広がる久居桃園地区の閑静な住宅地の外れに位置し、竹林や木々に囲まれた自然豊かな環境である。東隣にお寺があり境内や周辺を散歩しながら、四季の変化を肌身に感じられる外出支援が日常的に行われている。3階建てで3ユニットがあり、通常は各階が独自の日課で活動をし生活が営まれている。開設以来、一貫して「和言愛語」の理念の元、職員は優しい言葉と、和やか笑顔で利用者へ接し、皆が穏やかな気持ちで過ごせるように心掛けている。過去に孤立していた利用者へ、他の利用者が交代で声掛けをして、メンバーの輪の中に誘い交流するようになった利用者へ、職員が見守り支援した経験から、管理者は、利用者同士が心を和ませて、お互いを気遣い支え合って暮らしていける関係を築いて行く支援を職員と共に目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の身分、勤務体制の複雑化などは、理念の共有、実践を難しくしている。毎日の業務、ふれあいの中で、身をもって学びあいたい。	開設以来、全事業所が「和顔愛語」を理念と定め、管理者は、職員に「優しい言葉と和やかな笑顔で利用者に接し、穏やかな心で過ごせるように支援することが何よりも大事」と伝え、職員も充分に心得ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営母体が地理的に離れており大きな合同行事も全てそちらへ出向くことになるように、地域交流の点で希薄に成りがちである。行事の地域での開催を考えている。	事業所として自治会に加入している。昨年は10周年記念品を役員に配布して回った。近隣の農家から野菜等の差し入れをいただき、事業所は新春餅つき大会でついた餅を届けて感謝し、住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への貢献をいいながら10年も過ぎました。ますます研鑽を積み地域貢献の実が挙げられるよう精進したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入浴時間の設定は、介護員の勤務体制に左右されることが多い。個々に添った時間設定など柔軟な選択が出来るよう考えている。	管理者は、前任の自治会長に運営推進会議を開会するために協力を依頼して承認を得たが、役員改正で自治会長が交代したために、改めて現任者に説明し協議中で、年度内の開会を検討中である。	運営推進会議の開会が困難であれば、市の介護保険課に相談して協力を依頼し、年度内には計画し開会することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営が円滑に行われ、地域福祉に応分の貢献が出来るようご指導お願いしたいと思います。当施設では、援護担当の方にお世話になることが多くなりました。宜しくお願いいたします。	利用者の要介護認定更新時に、管理者は津市介護保険課に出向いて代行申請を提出している。現在9名の利用者が生活保護を受け、援護課のワーカーが事業所を訪問する際に利用者の生活相談等をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待と身体拘束の禁止は2者。不離一体とおもわれる。法について学ぶまでも無く、理念である「和顔愛語」の徹底理解に期待したい。	身体拘束・虐待防止のマニュアルを作成し、毎月職員会議に於いて、言葉による拘束も含めて事例を用いて学習会を開会し、職員への周知と防止の徹底を図っている。止むを得ず2名の利用者の家族に説明と同意を得てベルトを使用し、立ち上がる際の転倒防止を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホーム利用者さんの中にも制度利用者があり、職員の中に、制度について、関心を持ち、学習したい希望も聞く、機会を求めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設利用が必要となったとき、利用者、家族それぞれに不安が先立ち、判断に迷われることが多い。聴取、説明を尽くし、納得が得られるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、計画作成で意見を求めるときなど、機会を捉え、率直な意見、感想など聞けるよう配慮している。	職員は、家族の面会時に利用者の日頃の状態等を伝え、意見等伺うように努めている。また、事業所が家族に送るお便りには、利用者の状態を個別に記載して報告をし、家族からの意見等を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、リーダー会議における職員の意見、提案など、毎週2回の代表者との意見交換の場で採り上げ、上申・運営に反映を図っている。	毎月1回職員会議を開き、職員の意見や要望等を伺い全員で協議している。内容によって管理者は、毎週月・木曜日に代表者会議に出席する中で事業所の意見として提案し、業務や運営に反映している。些細なことでも事業所独自の行事を開催したいと職員の提案があり検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、諸規定、職場環境の整備、点検を行い職員それぞれが、向上心を持って、仕事にまい進で来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外で催される講習会への参加は言うに及ばず、日常業務のなかで学ぶ心を育ててゆきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流によるサービス向上への期待は大きい。良い介護、「利用者本位」の実践に向け向上心の喚起を図って行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「利用者本位」言葉に矛盾の無い関係作りからはじめなければならない。不安を取りのぞき、安心した信頼関係ができるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所サービスに限定せず、広く、本人家族の要望を聴き適切な対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所サービスに限定せず、広く、本人家族の要望を聴き適切な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側、《家族》に思わぬ隔たりを覚えることがある。真実の心の内を聞くのは難しい。鍵は、誠、信頼をおいてないよう。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	《同上関連》		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人、場所の懐かしい記憶が、今の安心感・充足感となって、いまのころを満たしてくれる。「あそこにいけば彼がいる」「あそこには、あれがある」思い出こそ、心の支えだ。	利用者にとって馴染みの人間関係や懐かしい場所等は、日常的な会話や家族等から聴き取って本人との会話の糸口になっている。入居前から通っていた床屋等には本人の希望があれば一緒に行き、関係の継続支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「みんなの心がうれしいね。みんなは、ちゃんと見ている。知っている。ささえ合って生きているんだ仲間なんだ」		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、職員が転居先を訪ねたりする。断ちがたい心が、うれしく、温かい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安心して、自ら進んで話せる場を作り、聴取に努めるは勿論、ふと見られる、しぐさ、表情からも読み取る心配りが必要となる。	言語で意思表示が困難な利用者の思いや意向については、職員が傍に寄り添い、利用者の声や表情やしぐさ等から職員が推測して判断した内容を他の職員に伝えて共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に先立ち、本人・家族と十分話し合い、聴き、相互に理解を深め、信頼をえられるよう努めなければ成らない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	慣れるに従い、見落とししたり、見逃したり、つい気づかず、やり過ぎがちである。見る眼、気づく心を忘れないよう、戒めあっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各、ユニットの職員会議において、職員、協力医、できれば家族、本人の希望、意見など聴き、本人本位の計画作成に努めている。	各ユニット毎に計画作成担当者を1名配置し、入居後仮計画を作成し、本人・家族・職員よりアセスメント情報を収集して介護計画書を作成し、管理者兼ケアマネがチェックして家族に説明と同意を得ている。3ヶ月毎に職員会議でモニタリングを実施し、必要に応じて計画の変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア実践のなかで気づいたこと、特に変化を見逃さず、記録、共有することでミスの無い様対応を心掛ける。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体制面で、即対応が困難が予想される。出来る限り必要、可能に対応できるよう努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高齢に伴い可能な領域が制限を受けているが努力と工夫を怠らず進めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により協力医の往診、各係り付け医の往診、受診、家族、本人の都合、希望によって対応している。緊急の必要時の対応について前もって話しあっておくことが必要である。	大半の利用者は協力医を主治医として、通院又は往診を受けている。本人・家族の希望により、従来の主治医の元へ受診する際も職員が同行して通院を継続している。歯科受診は協力医の往診にて受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の高齢化に伴い看護職の配置が望まれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の高齢化に伴いこのような場面に遭遇することが多い。本人、家族、職員にとっても対応の一大事、喫緊の問題となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	前項関連、本社、協力医、家族さん、地域のかたがた皆さんのお考えを聞きながら決めてゆきたい。	入居時に重度化や終末期の対応を本人・家族に説明し、事業所では看取りは実施しない方針で将来のために老健や特養ホームへの入所申込を勧めている。急変時は主治医に連絡をし、指示に応じて救急車対応を行っている。看取り介護は実施しないが職員の心得として学習は続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導をいただき、訓練実施時に練習をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	オープン11年、入所の皆さんも、高齢化、安全を守る責務は計り知れず重い。自力での避難を具体的に訓練、体験周知を集め、対策を講じなければならない。	年2回避難訓練を実施し、内1回は夜間火災想定訓練で、職員の役割分担として、初期消火・避難誘導・通報招集訓練を実施している。3階建ての建物で各階の避難場所へ利用者を安全に避難誘導する必要があり、特に3階の避難場所が危険なため、改修を検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	和顔・愛語こそが実践の目標だと認識している。人格もプライバシーもこの心を持ってわかってもらえると信じている。	各居室にトイレと洗面台を設置し、歯磨きや洗顔、排泄や失禁時の介助は各自の居室で他の利用者に気付かれないように行い、プライバシーの確保が容易にできる。家族との個別の会話も居室で可能である。	意志
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく利用者のペースにあわせそれぞれの意思の表出を待つように心がけ、思いや希望を聞き取るゆとりを持つように、自己決定を促していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	およその行事内容やペースはみな希望をそれとなく読み取りそれに合わせて進めているが、認知の状況それぞれによって困難である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事にあわせ、試みたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事こそ楽しみの大イベント、明るく、楽しい雰囲気の中で味わってほしい。摂取に問題のある人もあり、職員と一緒に出来ないのが残念である。	委託業者の栄養士が献立を作成し、食材を事業所へ配達し、ユニット毎に職員が調理を行なっている。その際に利用者の状態に応じて職員が献立を変更することもある。利用者の希望で寿司やうなぎの出前や外食機会も設け、食事を楽しむ支援を実践している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養、水分については、医師の指導によって、量の管理、記録に努め適量摂取を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについて 就寝前を習慣として積極励行されている。協力歯科医の往診もあり積極的に清掃管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にデータを取り、排泄のパターンも参考に支援を心掛けている。薬物のみにたよらず、日常習慣動作を見直すなどトータルな点検が期待される。	尿意・便意が不十分な利用者に、排泄記録をベースに表情等で尿意を察知して職員が居室へ誘い、トイレで排泄をし自立支援を促している。夜間は時間で声掛けをして排泄しポータブルトイレは使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	前項関連、参考にしてください。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間の設定は、介護員の勤務体制に左右されることが多い。個々に添った時間設定など柔軟な選択が出来るよう考えたい。	毎日午前中を入浴時間と定め、利用者は1日おきに週3回は入浴機会がある。入浴を拒む利用者は無く、しょうぶ湯や柚湯、入浴剤等で変化がある入浴を楽しんでいる。3階ユニットは、職員が工夫してダイヤル式で順番を決めトラブルなく入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠の状況は日中の過ごし方にも影響される。適度に体を動かすことも必要だろうし、入眠前の気持ちのあり方によるかもしれない、難しい、勉強中です。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師の助言、指導をもらい薬剤についての知識、薬の服用について注意点を学び誤りなきを期したい。服用後の効果についても。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵の好きな人、トランプ、絵合わせ、記憶ゲーム、しりとり、神経衰弱、それぞれ得意がある。眼が輝く。一日満足そう探そう。今日は、元気だぞ。皆の元気探そう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	思いついたように欲求がでる。近いところならひとつぱしり、それぞれ得意がある。得意なものだと眼が光る。一日満足そう。みんな得意カード探そうよ。	天気の良い日には、玄関先のベンチに腰掛けて、周囲の竹林や木々や花を眺めて皆で談笑しながら日光浴をしたり、運動を兼ねて周辺を散歩して気分転換を図っている。花見や利用者の希望で、買い物・飲食等の外出支援を実施して楽しむ機会もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	時々、買い物ツアーと称して皆で出掛けるが、お金を自分で所持することへの執着、欲望などはそれぞれだろうがよくわからない。個々に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	それぞれの希望、必要に応じた、支援を心掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに季節の花を飾ったり、高齢な利用者それぞれにとって快適な環境であるよう務めている。	全て内装は木造で、明るく温もりが感じられて心地良い。利用者が集うホールとキッチンがオープンで対面式であるため、職員は調理をしながら利用者と会話が出来てアットホームな雰囲気である。畳スペースで洗濯物をたたみ、寝転び皆の憩いの場である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は広くありたいが乏しい。個室の広い利用法を考えたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの部屋もそれぞれの趣向、好みに応じ、その人らしい雰囲気を漂わせている。思い出の品々に触れることで、安心と落ち着きが得られているようだ。	居室の内装も木造で温もりが感じられ、各室に洗面台とトイレが設置されて清潔感もある。各自が自宅で馴染みの用具を持ち込み、家族の写真や自分の作品等を飾って居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	間隔の広い手すり、背伸びのいるちょっと高め衣装棚、工夫により思わぬトレーニングマシーンになるものも役立っています。		